

価値観の構成要因についての研究 —中国版価値観尺度作成の試みと中国人の 普遍的価値観エティックスの検討—

The Study About the Constitution Factor of the Sense of Values
—Sense of Values Standard Making for China and Examination
of the Sense of Values of the Chinese Normal—

李艶

Li Yan

要 約

本研究は The Chinese Culture Connection の研究を発展させて、また中国人の価値観の普遍性を確かめるため、中国の18歳から30歳の一般青年396人を対象に、シュプランガーが提唱した6種類の普遍的価値、すなわち理論・経済・審美・宗教・社会・権力について中国人がどの程度志向し、体験しているかを測定する質問紙と今野・堀の(1998)正当世界信念尺度を使い、調査を実施した。その結果中国人もそれぞれの価値への志向性を共有していることが確認できた。価値の普遍性エティックスの傍証にもなると言えよう。

Key Words : 価値観, 価値志向, 正当観, 比較研究

目 的

個人が何を望むか、何を重要と思うかという判断を下すときの基準とするのが、価値であり、複数の価値を体系化したものが価値観と一般的に考えられている。Ember & Ember (1985) は文化について「ある社会に共有されている価値、習慣である」と述べている。

価値は、人格の構成要素であると考えられ、個人にとって、「望ましいもの」「重要であること」「受容すること」、すなわち、何に価値を見出すのかは個

人によってかなり異なる。したがって価値観の個人差に注目して検討することが大変重要である。一方、視野を広げて、ある地域・国・民族などの集団を対象に、共有する価値観の構成、共有度などを検討することも認識すべきである。前者は個人的価値観であり、後者は社会的価値観である。社会的価値観には、社会的規範や道徳観も含まれる。

既存の価値観に関する尺度には、二種類のパターンがある。一つは普遍的・総合的な観点から作られたものである。モリス（1956）は、好ましい生き方を焦点に13の価値類型を提唱している。辻岡らはモリスの13種類の価値観をもとに、共同的・博愛的・道徳的・自己沈潜的・努力的・多彩的といった6種類の価値からなる価値観尺度を作っている。最も広く使われているのは、シュプランガー（1921）による6つの価値カテゴリーを測定する尺度である。そのカテゴリーは理論・経済・審美・宗教・社会・権力である。本研究では、シュプランガー（1921）の6種類の普遍的価値を中国人がどの程度志向しているか、またどの程度体験しているかを検討する。さらに、社会の公正に関する信念—正当世界信念（belief in a jus world）についてどの程度信じているかを調べる。正当世界信念とは「正の投入は正の結果が、負の投入は負の結果が伴う」という思想であり、そのもとで努力や善行などは常に報酬や成果・成功などをもたらし、怠慢や不正行為は失敗や刑罰に帰するという考え方である。

価値観の問題を含む人間の心理・行動にかかわる現象を追求するに際して、個々の文化に固有な行動に注目するだけではなく、普遍的な行動にも目を向けねばならない。比較文化心理学研究では、世界中どの文化においても類似している心理・行動特徴を「エティック（etic）」とよび、一方特定の文化にしか見ることのできない行動特徴を「エミック（emic）という。したがって、このエミックの考え方によれば、ある文化において真理であっても、文化が異なれば、真理でなかったりするのである。ある文化や社会的背景を有する被調査者の調査結果がほかの地域や国で調査で反復されたとしても、同じように、別の文化や社会的背景を有する被験者すべてに当てはまるとは

限りないのである。

ところで、チャイニーズ・カルチャー・コネクション (The Chinese Culture Connection) (1987) の比較研究グループは、国際的な研究ネットワークであり、東洋文化特に中国に源を発している人間の行動のエミク的な理論が個々の文化を超えて普遍的に存在することを探求する方法を提供した。人間行動の心理的な理論、そしてその理論を検証するために開発された測定方法が、ほとんどに西洋文化の考え方から引き出されているということからすれば、この研究方法はユニークなものである。5000年以上にもわたる中国文明の歴史と、思想、価値観、考え方などは、東南アジア諸国に多大な影響を与えていることから、中国文化における普遍性の探求を行うことは有効かつ論理的であると考えられる。この研究グループは世界22カ国において、その国の言語を用いて、中国人価値観の調査を行った。各文化レベル別にデータが分析され、因子分析が行われた結果、4つの因子が抽出された。いずれも因子とする中国人価値観調査Ⅰ (統合 Integration), 中国人価値観調査Ⅱ (儒教的労働観 Confucian Work Dynamism), 中国人価値観調査Ⅲ (人類愛 Human-Heartedness), 中国人価値観調査Ⅳ (倫理観 Moral Discipline) と命名された。また同時に Hofstede (1980) が行った西洋人の職業観に関する調査の研究にも参加した22カ国の内の20カ国が参加、両方の研究結果が比較され、中国人価値観調査因子は Hofstede (1980) の研究で抽出された因子、つまり、権力志向 (Power Distance), 曖昧さの拒絶度 (Uncertainty), 個人主義 (Individualism), 男性優位性 (Masculinity) と相関していることがわかった。両研究において負の相関関係が見られたのは Hofstede の権力志向と個人主義、中国人価値観調査Ⅰ因子 (統合 Integration), 中国人価値観調査Ⅳ因子 (倫理観 Moral Discipline) であった。また統計的に有意相関は Hofstede の男性優位性と中国人価値観調査Ⅲ (人類愛 Human-Heartedness) の間に見られた。

上述した結果について、チャイニーズ・カルチャー・コネクション研究グループは次のような解釈を行った。第二次因子分析の結果わかった権力志向、

曖昧さの拒絶度，個人主義，男性優位性の4つの因子は自己探求の行動と集団の調和という“集団主義”の普遍性である。もう一つの普遍性は，強い正の相関が見られた男性優位性と人類愛であり，ここに“東洋的”な特性も認められる。最後には東洋的な特色を持つ因子の儒教的労働観であり，これは，Hofstedeの西洋における労働観のいずれとも相関が見られていなかった。この儒教的労働観は，台湾，香港，日本，韓国，シンガポールなどに当てはまる東洋文化のエミク的な価値観である。さらに，この儒教的労働観と国民総生産との間に高い正の相関が見られたことから（ $r = .70$ ），驚異的な経済成長を儒教文化の発展に帰する“ポスト”儒教的仮説が支持された。

このように同研究グループは，中国に発する東洋文化の影響をうける国々の人間行動のエミクを明らかにし，また，その方法を探った。

本研究の目的はこのチャイニーズ・カルチャー・コネクション研究を進展させて，中国人の価値観の普遍性を確かめることである。すなわち，中国人が普遍的な価値観（エティック）をどれほど共有しているかを調べ，さらに中国版価値観尺度を作成することである。

方 法

調査対象 中国の18歳から30歳の一般青年396人であった。

調査内容 ①価値観尺度：シュプランガーが提唱した6種類の普遍的価値，すなわち理論・経済・審美・宗教・社会・権力について中国人がどの程度志向し，体験しているかを測定する質問紙尺度で筆者が中国人用に改訂したものである（計70項目）。

②正当世界尺度：今野・堀（1998）の尺度で，計4項目である。いずれの尺度も回答方法は「当てはまる」「やや当てはまる」「どちらとも言えない」「やや当てはまらない」「当てはまらない」の5段階選択で質問した。

価値観尺度の作成過程：まず50人の大学生に面接調査と半構造化面接調査を行い，質問項目を作成した。次に予備調査を行い，不適切な項目を除いた。

結果と考察

1. 価値観の因子構造

得られたデータの因子分析（主因子法，バリマックス回転）を行った結果，6種類の価値志向性を表す因子が抽出された。表1—1から表1—6はそれぞれの価値の因子構造を示している。

表1—1 価値観の因子分析結果（理論）

項 目	因子負荷量
試験勉強などでは丸暗記は避け，事柄の本質や原理を理解しようとする。	.821
自分の予測外のことが起きると，すぐにその原因・理由を考える。	.802
よく理解できないところがあると，頭がすっきりするまで考え込む。	.795
より正しいものの見方・考え方はないかと。常に追求している。	.787
自分の思考の筋道に飛躍や矛盾がないか確認しながら考えを進む。	.767
わからないことがあると，辞書や事典で調べて確認する。	.759
ものの仕組みや仕掛けがどうなっているか，興味を持つ方だ。	.741
複雑な物の中から，法則性や規則性を見つけ出すことに関心がある。	.730
“これは何だろう” “なぜこうなるだろう” という疑問をもつ。	.726
一度疑問を持ったら，納得のいく説明にたどり着くまで，簡単にはあきらめない。	.650

表1—2 価値観の因子分析結果（経済）

項 目	因子負荷量
自分にとって役立つもの・便利なものは積極的に活用する。	.779
買いたいものがあるとき，なるべく安売りや割引などのチャンスを利用する。	.760
重要な選択をするときには，プラス面・マイナス面を考えて現実的に判断する。	.753
そのときの状況や目的に応じて，無理のない計画を立てる。	.750
無駄な時間や労力はなるべく費やしたくない。	.743
得られる結果が同じなら，なるべく手間の掛からない方法を選ぼうとする。	.743
転んでもただでは起きない方だ。	.730
わずかな空き時間・待ち時間も有効に活用する。	.686
目先のことより長期的な損得を考えて行動する。	.674
仕事は手順・段取りを考えて，効率よく進めようとする。	.642
実現しそうなことに手を出して，失敗することが多い。（*）	.804

表 1—3 価値観の因子分析結果 (審美)

項 目	因子負荷量
自分の気持ちや感じにびっくりく言葉を見つけようとする。	.806
物事の美しい面を捉え、どうすればより美しさが際立つか考える。	.806
自分がきれいだと思うものを、集めたり飾ったりする。	.783
自分の好きな音楽の流れの中にひたっていると、とても気分がよくなる。	.779
身の回りの道具などは生き物にたいするような親しみを感じることがある。	.771
何かに見とれることがよくある。	.764
気に入った絵や写真などを時間の経つのも忘れて眺めていることがある。	.749
身の回りにある物の形や色に、強く心を引きつけられることがある。	.742
気に入った小説や映画の世界の中に入り込んで、想像を巡らせている時がある。	.733
印象的なことに出会うと、それを文書や絵、音楽などで表したくなる。	.707
芸術的なものにはあまり興味がない。(*)	.566

表 1—4 価値観の因子分析結果 (宗教)

項 目	因子負荷量
大きな運命の流れを感じることがある。	.739
宗教や信仰の世界は、自分とは無縁だと思う (*)。	.723
自分の人生にいつかは終わりが来るということを意識しながら生きている。	.698
自分が生まれる前にも死んだ後も続けていく、永遠のときの流れを感じることがある。	.684
生命の素晴らしさ、神秘性に、畏敬の念を持っている。	.508
一生の間にどの程度のことのできるだろうか、考えてみることがある。	.513
自分や宇宙の偉大さの前に、謙虚な気持ちでありたいと思う。	.463
こ自分に与えられた生を精一杯生きようと思う。	.449
世界の無限の広がりの中では、自分はごく小さな存在だと思う。	.401
“自分が何のために生きているか”などは、考えたこともない。	.381
死ぬ時に悔しいが残らないような生き方をしたいと思っている。	.331

表 1—5 価値観の因子分析結果（社会）

項 目	因子負荷量
人の役に立てたり、人と助け合えたりすることに、充足感を見出す。	.460
自分が誰かの心を傷つけてしまったことに気づくと、耐えられない気持ちになる。	.452
相手の話をよく聞いて、気持ちを受け止めようとする方だ。	.433
仲間と力を合わせて、1つの目標に向かって頑張るのが好きだ。	.422
人の喜びや悲しみを心から共に分かち合いたいと思う。	.419
困っている人を見ると、放っておけない気持ちになる。	.409
ある人の生き様を深く知って、心から共感を覚えることがある。	.334
親しい人たちとの結びつきを求める。	.309
大切な人のために、尽くすことに喜びを感じる。	.290
他人のことを深く理解したいとは思わない。	.279
人と心が通い合った時の喜びは、言葉で言い尽くせない。	.258
あまり人と親密な関係になりたいと思わない。（*）	.102

表 1—6 価値観の因子分析結果（権力）

項 目	因子負荷量
周囲の意向や、その場の雰囲気にならわらずに行動することが多い。	.433
話の流れを自分のペースに持っていくことが好きだ。人の上に立つような仕事がしたい。	.427
自分の属する集団に自分と異なる主張をする人がいると、気になって仕方がない。	.405
人に指示を出したり、命令するようなことは気がすまない。（*）	.390
人に対して説教をしたくなることがある。	.378
グループの中で仕切り役を務めるのは好きな方だ。	.358
他人に自分の弱点やもろい面を知られてつけ込まれないように用心している。	.338
対立する相手と戦っても、自分の意志を通そうとする。	.333
周囲の人に影響を与えるような人間でありたい。	.203
事態を自分の手でコントロールできない立場にいると、もどかしさを覚える。	.191
いかに相手をうまく説得するかに関心がある。	.143

この結果から、シュプランガー(1921)が提唱している価値、すなわち理論・経済・審美・宗教・社会・権力について、中国人もそれぞれの価値への志向性を共有していることが確認できた。このような諸価値の普遍性の傍証になると言えよう。

次に正当観尺度の因子分析の結果については、独立因子が抽出されたが、因子負荷量が低いため、再検討を行う必要がある。

2. 両尺度の信頼性の検討

抽出された6種類の価値因子について、測定された価値の平均、標準偏差、信頼性係数(α)は表2に示すとおりである。各下位尺度において、ある程度の信頼性が得られ、尺度の内的整合性が認められた。

さらに、正当観尺度における正当観についても、ある程度の信頼性と内的整合性が認められた(表2の最下段)。

各下位尺度の内容の妥当性について、職業観および職業興味例えばVPI検査との関連から検討すべきであり、今後の検討の課題である。

表2 価値観下位尺度の平均・標準偏差・信頼係数

下位尺度	平均	標準偏差	信頼係数
理論	3.41	0.66	0.76
経済	3.52	0.62	0.83
審美	3.46	0.90	0.77
宗教	3.44	0.64	0.84
社会	3.30	0.45	0.87
権力	3.54	0.67	0.86
正当観	3.55	0.93	0.67

文 献

- Chinese Culture Connection. (1987). Chinese value and the search for culture-free dimensions of culture. *Journal of Cross-Cultural Psychology*, **18**, 143-164. Sage.
- Hofstede, D. (1980). *Culture's Consequence International Differences in Work Related Values*. Beverly Hills, CA : S
- MOW Meaning of Work International Research Team. (1987). *The meaning of working*. London Academic Press. **73**, 755-767.
- 李艶 1992 仕事の価値観の交差文化的研究
富士ゼロックス 小林節太郎記念基金研究助成論文
- Yamauchi, H., & Li. Y. (1993). Achievement-related motives and work-related attitudes of Japanese and Chinese students. *Psychology Reports*, **73**, 755-767.
- 李艶 2005 仕事の態度と価値観についての調査研究
—中国社会人を対象に— 聖泉論叢 13号 聖泉大学, 1-14.
- 李艶 2006 仕事の態度と価値観についての調査研究
—日本の社会人を対象に— 聖泉論叢 14号 聖泉大学, 21-34.
- 李艶 2007 社会意識・価値観の日中比較
—比較文化心理学視点からの研究— 聖泉論叢 15号 聖泉大学, 75-90.

付 記

本稿は平成20年度私立大学等経常費補助金特別補助 地域共同研究支援の助成による研究成果である。